

先日、PTA教養講座があった。例年、園長講話があるという。幼稚園教育とは、子育てについて、こういった内容だと困る。そうなってしまえば、自分なりに勉強するつもりではいた。ところが、幸運なことに、新しい園長になったということで、園長の自己紹介となった。それも、時間が30分もある。お陰で、我が人生最長の自己紹介となった。

人前で話すことが多い。ということは、自己紹介をするチャンスが多いということになる。だが、滅多に自己紹介をすることはない。講師紹介という形で紹介されてしまうことがある。また、講話や指導助言をするときでも、自己紹介を最後にもっていくようにしている。その結果、時間がなくなり、自己紹介ができずに終わるというパターンが多い。その場にいる方からすると、一体、あの人は何者なのかという疑問が残る。

人生最長の自己紹介という大きなチャンスをいただいた。タイトルを「子育てを振り返る」とした。自己紹介をしながら、我が子育てを振り返りたいと考えた。反省したいのである。

自分の経歴と子育てとを考えたときに、「家族史」という発想が出てきた。もちろん、こんなものをつくったことはない。初めてである。自分がこれこれをしていたときは、長男が何歳で何々、長女は何歳で何々といった具合に、年表のようにしていった。懐かしさはあるが、それよりも後悔ばかりが出てきた。ああすればよかった。こうしておけばよかった。我が子育ての至らなさをカバーしてくれたのは家人である。感謝しかない。

自己紹介では、なぜ園長になったのかについても話した。2か月以上が経過し、今一度、原点に戻るという意味があった。園長職のかたわらで、こんなことをしていますという話もした。いろいろなことをやっている自分がいた。

子育てのエピソードとしては、我が家の子育てにおける最大のピンチであったイタリアでのシチリア事件を取り上げた。また、BDS（部活動大好き先生）である自分が、同じくBDS（部活動大嫌い先生）であった家人に迷惑をかけていたことも話した。幼稚園の保護者面談に行くように言われ、苦しかったことも懐かしく振り返った。

園長として考えていきたいこととして、公立幼稚園としての存在意義、公平で安全な環境提供、保育の質の向上、保護者の満足度などについて、自分の思いを伝えた。教員の中では、実に稀な変わった経歴であることが、改めて浮き彫りとなった。同時に、そんな自分だからこそ、できることがあることも再認識することができた。家族史とともに、子育てを振り返ることができた。人生最長の自己紹介というチャンスをいただけたことに感謝である。